

日本原子力学会 核燃料部会
令和3年度第三回運営小委員会議事録

日時：令和3年11月1日（月） 13:30～15:10 於 WEB 会議(Webex)

出席者：加藤部会長，大江副部会長，佐藤副部会長，阿部委員，宇田川委員，宇埜委員，大堀委員，尾家委員，川西委員，黒崎委員，篠原委員(web 不通により欠席扱い)，園田委員，竹野委員，片山様（谷口委員代理），橋爪委員，内川様，樋口委員，松永委員，高田委員（松本委員代理），大谷委員，山内委員，渡部委員，尾家（記）

議事

1. 前回議事録等の確認（資料1）

尾家から，前回（令和3年度第二回）運営小委員会議事録を紹介した。また，事前にメールにて確認済みである旨紹介し，了承された。

2. 令和3年度核燃料部会業務分担について（資料2）

尾家から，日本原燃松本委員から高田委員に交代に関する部会全体審議の手続きについて11/2付で情報メールにて行う旨を紹介し，了承された。

3. 令和3年度収支実績と令和4年度予算案(資料3)

尾家から，令和3年度の収支実績および令和4年度予算案および執行状況について紹介した。

令和4年度の夏期セミナーについては，現地開催かオンラインか未決定であるものの，11/19までに予算案提出が必要なため，夏期セミナーは，現地開催ベースで令和3年度予算算定時と同額で計上することとした。

4. 核燃料部会・部会賞（学会講演賞）について（資料4）

樋口委員から，2021年秋の大会学会講演賞の選考結果が報告され，中森氏，岡田氏の2名を選定することが承認された。

なお，審査者のコメントに独創性に関するものがあつたが，若手研究者が独自の発表テーマに取り組むこと自体難しいため，審査の視点については引き続き検討の余地がある。

また，第10回（2021年度）核燃料部会部会賞（奨励賞）の募集を行う予定であり，募集案内の文案について後日メール審議することとした。

5. 企画小委員会の概要について（資料5）

佐藤副部会長から，10月18日に開催された企画小委員会の紹介があつた。

核燃料企画小委員会のメンバー交代，2022年春の年会企画セッション，2021年度夏期セミナー実績および2022年度の計画について議論された。（詳細割愛）

6. 2022年春の年会における企画セッションについて（資料6）

樋口委員より、2022年春の年会の企画セッションについて、準備状況が紹介された。前回企画セッションからの連続性および今後の計算科学分野への拡張性を意識して「核燃料開発におけるシミュレーション技術の活用（仮題）」というタイトルで検討しており、計算科学技術部会と今後の合同セッションに向けて情報交換もはじめている。

今回の企画セッションにおける狙いは、核燃料分野におけるシミュレーションの活用状況と課題点をまとめ、今後の計算科学技術部会側からのアプローチの検討に資することである。

シミュレーションの活用は多岐に渡り、核燃料の物性変化、組織変化や被覆材挙動、熱流動など、さらに核燃料も軽水炉向けと高速炉向けと異なる。企画セッションにおける限られた討論時間を考慮すると今回はタイトル案のとおり核燃料を中心に議論を展開していくことでどうかとの意見があった。

メーカーの解析コードは商業機密のハードルが高いことから、軽水炉向け燃料についてはJAEA宇田川委員の協力を得つつ、高速炉向けには同じくJAEAのPuセンターの協力が考えられる。11/17までに企画書案の提出が必要であるため、協力者の意見を踏まえつつ、メール審議することとなった。

7. 夏期セミナーについて（資料7）

渡部委員より、令和3年度の3部会合同夏期セミナーの報告がされた。オンライン開催となったが通信トラブル等もなかった。今後オンライン開催か現地開催かの是非についてアンケートが紹介された。

8. 核燃料部会報No.57-1について（資料8）

竹野委員より、核燃料部会報 No.57-1 の進捗と次年度の No.57-2 について紹介された。

No.57-1 は12月に発行予定であり関係者に執筆を依頼中である。No.57-2 については国際交流ニュースや巻頭言について執筆候補者が見つかっておらず、引き続きして検討いくこととなった。なお、巻頭言については毎回掲載されているわけではなく、至近では部会長交代の際に掲載している。

9. その他

(1) 文部省人材育成関係の件（資料9-1）

黒崎委員より、北大から依頼のあったアーカイブ形式のオンライン講義について意見照会があった。テキスト作成にあたっての著作権の確認作業、講義の録画といった作業は北大側で対応するものの、メーカーをはじめ人的余力が限られている一方で、講義1回分程度であれば対応可能という意見も出た。また、実際に全8回あるいは15回の講義を受け持つとなるとコンテンツと講師案を検討する必要があるため、黒崎委員にて北大と調整していくこととなった。

(2) オンライン会合のあり方について (資料 9-2)

大江副部会長より、山口会長からコメントのあったオンライン会合の今後の在り方について意見集約がなされ、以下のような意見が交わされた。

- ・年会・大会についてはどちらかというところ現地開催を志向するが、オンライン開催のメリット及びノウハウ継承を鑑み、現地・オンラインの交互開催も選択肢。

その場合、秋の大会を現地開催、春の年会をオンライン開催の方が望ましい。

- ・企画セッションは年会・大会開催中に合わせることで異存ない。
- ・動画記録、ウェビナー参加については、どのような対応が必要であるか継続協議の上、協力できる範囲での対応を検討する。

11/29 までに部会等運営委員会へ回答が必要であるため、本日議論できなかった部分も含めて大江副部会長へ意見提示するとともに、回答案についてはメール審議することとした。

(3) ATF

川西委員より、以下紹介・検討依頼があった。

- ・事故耐性燃料は、文科省事業とエネ庁事業も活用して開発推進している。
- ・今般、これら事業の実施主体である東京大学およびJAEAの主権にて意見交換のオープンセッション(ワークショップ)を検討している。
- ・燃料関連の開発ということもあり、核燃料部会等に共催いただきたいと考えているので、ご検討いただきたいたい。

これを受け、核燃料部会として共催する場合の手続きを学会事務局に確認した上で、必要に応じて部会で改めて審議することとした。

(4) 次回運営小委員会について

次回の運営小委員会は、令和4年2月18日(金)13時30分から、開催することとした。

以 上